



からだステーション

2024年
1月号
荻窪接骨院
荻窪治療室

大谷翔平

生い立ち

昨年のWBCで日本を優勝に導き、そのまま2023年シーズンに突入して二刀流を進化させた大谷翔平は大活躍を見せます。肘の手術で途中離脱したものの、本塁打4本で初のホームラン王を獲得しました。エンゼルスをフリーエージェントとなり、去就が注目されていましたが、昨年12月10日にドジャース入りを公表しました。昨年は大谷で始まり大谷で締めくくった一年であったと思います。昨年の世相を反映する漢字は「税」でしたが、個人的には「翔」にして欲しかったなあとと思います。今年最初のからだステーションは「大谷翔平」を取り上げ、彼の経歴とそのすごさに迫っていきます。

1994年7月5日、岩手県水沢市(現在の奥州市)にて、元社会人野球選手の大谷徹とバドミントン選手の大谷徹との間に二男として出生。兄はトヨタ自動車東日本硬式野球部所属の大谷龍太。さらに姉が一人いる。地元・奥州平泉にゆかりある源義経の八艘飛び(はっそうとび)のイメージから「翔」と、平泉の「平」を合わせて父・徹が「翔平」と命名している。



母・加代子と翔平

リトルリーグ

奥州市立姉体小学校3年生の時に水沢リトルリーグで野球を始め、全国大会に出場した。当時の捕手は「翔平のボールは恐怖を感じるほど速かった」と語っている。小学校5年生にし

て球速110キロを岩手県営野球場で記録し、1試合6回で17奪三振の成績を残している。6回で17奪三振とは、アウト18個中17人から三振を奪う事である。奥州市立水沢南中学校時代は一関リトルシニアに所属し、ここでも全国大会に出場している。大谷が少年時代に憧れた選手は、打者では松井秀喜、投手ではダルビッシュ有だったという。



花巻東高校

自身が中学3年の時にセンバツ大会決勝に進出した岩手県の花巻東高校のエース、菊池雄星に憧れ、同校へ進学。「日本一になる」「日本人最速となる球速160キロを記録する」「ドラフトで菊池雄星選手を越える8球団から1位指名を受ける選手になる」ことを目標に掲げた。MLB移籍後も「僕にとつて雄星さんは特別な存在」と語っている。2年生の春には最速151キロを記録し、「みちのくのダルビッシュ」と呼ばれ注目を集める。

第93回全国高等学校野球選手権大会初戦の帝京高校戦では骨端線損傷により右翼手として先発出場するが、4回途中から登板し、駒澤大学附属苫小牧高校の田中将大に並ぶ甲子園での高校2年生最速タイ記録となる150キロを記録。3年生の夏、全国高等学校野球選手権岩手大会の準決勝・一関学院高校戦ではアマチュア野球史上初となる160キロを記録した。この試合は7回を3安打1失点13奪三振の快投でワールド勝ちしている。



日本ハムに入団

プロ野球ドラフト会議前には日本野球界だけではなく、メジャーリーグ各球団からも注目され、会見では「日本のプロ野球よりもメジャーリーグへの憧れが強く、マイナーからのスタートを覚悟の上でメジャーリーグに挑戦したい」と語った。2012年10



月25日に行われたドラフト会議では、ファイターズが大谷を1巡目で単独指名し交渉権を獲得。指名後の会見では「びっくりしたし動揺もした。評価して頂いたのは有り難いが、アメリカでやりたいという気持ちは変わらない」と語り、指名挨拶のため日本ハムから訪問を受けた際にも面会しなかった。しかしその後、2度目の訪問で指名挨拶を受け、両親を交えた入団交渉も4度にわたって行い、3度目の入団交渉からは栗山監督も同席する。栗山監督らの懸命な説得により、大谷は12月9日に日本ハム入団を表明した。



日本ハム時代

2013年は春季キャンプで投手と野手の練習メニューを並行してこなし、オープン戦では、投手として登板した後、打席に立ち、更に右翼手の守備に就くなど、本格的な二刀流起用を想定した采配を

される。初年度、投手としては13試合に登板し、3勝無敗、防御率⁴.23を記録し、打者としては77試合に出場し、打率2割3分8厘、3本塁打、20打点だった。その後2016年には自身2度目の「同一シーズンで2桁勝利と2桁本塁打」を記録、NPB史上初の「10勝、100安打、20本塁打」を達成し、順調に二刀流が進化していった。2017年12月9日にロサンゼルス・エンゼルスと契約合意に至ったと発表され、同日に球団側も大谷の獲得を表明し、背番号は「17」と発表された。

エンゼルス時代

2018年4月1日のアスレチックス戦で先発投手として初登板を果たし、6回を3安打3失点で初勝利を挙げた。4月3日、本拠地初戦のクリーブランド・インディアンス戦で指名打者として出場し、第1打席で初本塁打を



放った。勝利投手が2日以内に打者として出場した試合の初回に本塁打を記録したのは、1921年のベーブ・ルース以来、実に97年ぶりの快挙である。このシーズンは打者として104試合に出場し、22本塁打、61打点、10盗塁。投手としては10試合に先発登板し、4勝2敗、防御率³.31の成績を残し、MLB史上初の「10登板、20本塁打、10盗塁」を達成し、華々しいメジャーデビューを飾った。しかしその後怪我に悩み、2019年9月12日膝蓋骨の手術のために残りのシーズンを欠場。2020年は投手としては2試合だけの出場に終わり、打者としては打率1割9分、7本塁打、24打点の成績に終わっている。2021年には復活し、二刀流を加速させた。この年怪我もなくシーズンを完走し、46本塁打、26盗塁、9勝2敗でMVPを受賞している。そして2023年WB



Cで大活躍し、昨シーズンの大谷の成績は、投手として10勝5敗167奪三振、打者としてはホームラン44本、打率3割4厘、打点95、盗塁20個という驚異的な数字を残し、二度目のMVPを受賞した。

ドジャース入団

昨年9月に右肘の手術を行い、今シーズンは打者のみとなるが、5球団が大谷の獲得に乗り出した。獲得したのはドジャースでその契約金は10年7億ドル、日本円にして1015億円。今や名実ともに世界一のプレイヤーになった大谷翔平は、今年ドジャースでワールドシリーズ優勝を目指す。



参考文献 ウイキペディア

**患者様の声を
お聞かせください**
下記QRコードを読み込んで、治療を受けた感想などをお聞かせください。今後の良い治療に活かしていきます。

